

中西校長先生

3 年 4 組 エルヒラシェ 莉菜

第 18 回 日本・スイス青少年交流使節団 活動報告書

この度、大阪市と関西日本・スイス協会による友好交流事業の第 18 回使節団として、スイスに行かせていただきました。その行程やスイスで学んだこと、皆に伝えたいことなどを、以下の通りご報告いたします。

記

1、スイス派遣までの準備

- ①平成 28 年 2 月 選考試験
- ②2 月 26 日～7 月 21 日 事前研修会 計 7 回実施
 - ・チームの役割分担 ・結団式や総会などのスピーチ原稿作成 ・英語&ドイツ語の学習
 - ・スイスについての事前学習 (パワーポイントによるプレゼンテーション)
 - ・ホームステイ先へのお土産 (バディの苗字を漢字で考えて彫った消しゴムハンコ) の作成
 - ・さよならパーティの出し物の準備 等
- ③6 月 9 日 結団式 (大阪市長公室にて) 日本語による決意表明
- ④7 月 4 日 関西日本スイス協会 総会 英語による挨拶

2、スイス派遣の行程

- ①7 月 24 日 出発 (関西空港⇒オランダ・アムステルダム経由⇒スイス・チューリッヒ)
- ②7 月 25 日～30 日 表敬訪問、観光 等
 - ・ルツェルン：市庁舎表敬訪問 ・ベルン：国会議事堂訪問、スイス日本大使館表敬訪問
 - ・ジュネーブ：国際連合・赤十字本部見学 ・ユングフラウヨッホ (ヨーロッパ最高峰 4,158m・登山電車)
- ③7 月 31 日～8 月 9 日 バーゼルにてホームステイ、表敬訪問 等
 - ・ホームステイ先で日本食を作り食べていただく (散らし寿司、そうめん 等)
 - ・さよならパーティにて出し物披露 (『浦島太郎』の英語劇、『ソーラン節』を踊る 等)
- ④8 月 10 日～11 日 帰国 (バーゼル空港⇒オランダ・アムステルダム経由⇒関西空港)



※飛行所要時間 関西空港～アムステルダム 往路：約 11 時間 45 分 復路：約 10 時間 55 分

＜偏西風の影響で、復路の方が所要時間が短い。＞

アムステルダム～スイス 約 1 時間 30 分

3、スイス派遣後の予定

- ①9 月 11 日～11 月 20 日 事後研修会 計 4 回実施予定
 - ・報告書や総会の役割分担 ・報告書や総会用原稿 (パワーポイント) 作成 等
- ②11 月 24 日 関西・日本スイス協会 秋の総会 英語・パワーポイントによる帰国挨拶及び報告
- ③12 月 14 日 帰国報告会 (大阪市長公室にて)

4、使節団の目標・約束事 『All of us are the buddies!!』 ※団員は、男子 2 名、女子 4 名の合計 6 名

事前研修会から、互いの良いところを見つけ生かしながら、皆で協力して信頼関係を築くことができた。派遣中、様々なトラブルもあったが、団結して解決できたことで、さらに絆が深まり、成果が得られた。帰国報告会をもって派遣は終了するが、来年のスイスからの使節団受け入れに、引き継ぎ力を注ぎたい。

5、スイス連邦についての基本情報

人口 約 824 万人（※大阪府の人口・約 884 万人よりやや少ない） 移民の影響で増加を続けている。

地理 西ヨーロッパの真ん中に位置。フランス、ドイツ、オーストリア、イタリア、リヒテンシュタイン共和国

と国境を接する。41,285 km²（九州とほぼ同じ面積）

国土全体が北海道より北に位置する。

宗教 カトリック、プロテstant、その他キリスト教、イスラム教

首都 ベルン（人口 約 13 万人）

言語（多い順に）・ドイツ語（64%）・フランス語（23%）・イタリア語（8%）・ロマンシュ語（1%）
・・・の4つが“国語” ※英語は全土で通用する。

その他・EU（欧州連合）：未加盟 ・通貨：スイスフラン（1スイスフランは約 105 円）

・永世中立国：どの国とも軍事同盟を結んでいないが、徴兵制があり、自衛のための軍事力を保持する。

・著名人：テニスのワウリンカ選手（2016 年全米オープン優勝）&フェデラー選手（バーゼル出身）

◆ホームステイ先のバーゼル⇒ドイツとフランスに国境を接する。ドイツ語を使用。

チューリッヒ、ジュネーブに次ぐスイス第 3 の国際都市。



↑Sissah 駅 ↓シヨン城



↓アッペンツェ



ル

・湖が多く、個人で湖を所有している人も少なくない。

◆建築について

・古い家、一軒家が多く、マンション、アパートは少ない。

⇒ホームステイ先の家は 16 世紀後半に建設された。

・屋根の色などが統一されている。

⇒例）首都ベルンでは、伝統的な景観を守るため、赤茶けた

色の瓦屋根にしなくてはいけない決まりがある。

◆物価が非常に高い

・『2016 年世界生計費調査 都市ランキング』第 3 位がチューリッヒ。

- ・例) マクドナルドのビッグマックセット：約1,500円、最低賃金：約34万円、
- ・ホームステイ先では、スイスより物価の安いドイツの店で、日用品の買い物をしていた。

◆愛国心が強い

- ・建国記念日を盛大に祝う。
- ⇒ホームステイ2日目の8月1日が建国記念日だった。
花火が上がったり、様々なイベントが行われていた。
- ・自分の国について、詳しく理解している。
 - ・自然や伝統文化を国民一人一人が大切にし、親しんでいる。



↑アップンツェル伝統の祭り

◆時間の流れ

- ・時間に追われておらず、時間がゆっくり流れている感じがした。
 - ・仕事や学業と、プライベートな時間との切り替えがとても上手で、
- 祭り
- その分、仕事や学業へのモチベーションも高いように感じた。
- ・学生の休暇が長い。⇒クリエイティブな生活を送っている。

7、特にみんなに伝えたいこと～国際赤十字の活動について（本部：ジュネーブ Geneva）

- ・赤十字マークは、創設者アンリー・デュナンの祖国・スイスに敬意を表して、スイス国旗の配色を逆にした。
- ・赤十字マークを掲げている病院や救護員等は絶対に攻撃してはいけないと国際法などで厳格に定められている。
- ・赤十字には2つのロゴがある。
- ・紛争・戦争の場所に行く場合は、必ず中立の立場である。武力行使はできない、しない。
- ・アフリカなどの国では、特に武装せずに人々に寄り添う。
- ・「子供」「女性」「アフリカの人々」ではなく、「困っている人」を助ける。
- ・皆に支援物資を届ける
- ・逮捕され刑務所にいる人と家族との連絡を取る。
- ・家族と離れ離れになった人々と家族を再会させる。
- ・災害があった場所に行き、支援物資の提供だけでなく、心のケアも行う。

※『14歳の兵士 ザザ』という赤十字の漫画を、みんなに紹介したい。



↑二つのロゴ

8、最後に

3週間、360度の雄大な自然に囲まれながら、そして、本当の家族のように温かく接してくださった優しいホストファミリーのもとで、スイスの文化と英語を学ぶことができた。また、使節団団長として、責任感をもって行動することの大切さやリーダーシップをとることの難しさなども学んだ。今後は、この貴重な経験を生かしながら、英語だけでなくドイツ語などの他言語や、日本・世界の歴史や文化への理解を深められるよう、さらに学んでいきたい。使節団への応募から現在までの様々な活動において、多大なサポートをして頂いているすべての方々に、心から感謝したい。

ピクニックの様子→



↓バラ公園にて